

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200195		
法人名	社会福祉法人 峯州福祉会		
事業所名	グループホーム桃寿苑		
所在地	熊本県上天草市大矢野町登立1426-4		
自己評価作成日	令和5年2月14日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が笑顔で利用者様、御家族に接することを心掛け、利用者一人ひとりに寄り添ったケアができるよう家庭的な雰囲気の中で、利用者が自立して心地よい暮らしを送れるよう支援しています。少しでも認知機能の進捗が穏やかになるよう、笑顔で過ごせるよう毎日レクリエーションや体操・苑周の散歩も行ってまいります。

また、コロナ禍であっても御家族様や地域の方と窓越し面会や電話での連絡方法を取り疎遠にならないよう心がけています。終末期においては、その人がその人らしく最後まで過ごせるよう御家族・主治医と連絡情報提供し合いながら、穏やかに最期を迎えられるよう職員全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の医療に貢献してきた医院の建物を受け継ぎ、グループホームらしい雰囲気になるよう建物内が改修されている。ホームの日常は明るく、コロナ禍にあっても入居者がその季節を戸外で楽しむことや家族とのひと時を過ごすことの重要性を十分理解し、地域資源を活用した外出支援や家族の協力を得て法事への参加も実現している。天候の良い日は玄関先に椅子を並び日光浴や車の往來を眺めている。代表者の自宅も地域の一つとして作物の収穫に出かけたり、お茶の時間をもつなど楽しみごとの一つとなっている。運営推進会議もこの1年、感染症の状況から1度は書面審議であったが、他は直接開催によりホームの運営に有意義な意見交換の場が設けられている。建物の外観からは伝わらないホームの姿勢や取組を共有してもらえるよう、感染症終息後は是非とも外部の方に足を運んでもらいたいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	何か困りごとがあれば理念に立ち返り共有すると共に実践に繋げようと努力しお互いに声掛け合いながら良い良い方向に進むよう努力している	5項目からなる理念には入居者のこれまでを尊び、持てる力を発揮してもらいながら「自分らしく」生活する事や、地域に開かれたホーム作りを掲げている。職員自身へは常に学ぶ姿勢を持つ事を理念の一つとし、月の勉強会や外部研修などを通して自己研鑽に努めるとしている。理念をケアの原点として何かあれば立ち止まり、振り返る事としている。	先に開設した法人系列のグループホームとは建物を共有している。互いの情報を交換し合同行事などに取り組む中で、法人が掲げる入居者尊重の精神や地域での役割などについて更に高めていかれる事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として交流したいがコロナ禍状態にて繋がりが難しく徐々に緩和されたら、また地域の方々と交流していきたい。野菜を持ってきていただいたり、レクリエーションで使用する輪投げを手作りで下さったりと、職員とは交流できている	地域医療に長年貢献してきた医院を改修したホームは、地域にしっかりと認知されており、運営推進会議のメンバーから食材やレクリエーション用の手作り品が差し入れされるなど関係性が出来ている。入居者は地元老人会が丹精込めたあじさい通りを散歩がてらに見学したり、代表者宅も地域の一つとして野菜の収穫なども楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域の方とは運営推進会議の中で情報交換等行っている。その際、質問等あれば助言している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年間で6回(2か月に1回)運営推進会議開催している。施設でクラスターが発生している時以外はなるべく集まっていたり、対面での開催をし意見をいただいている	運営推進会議を地域や行政、家族とを結ぶ貴重な機会と位置付け、感染症の状況を考慮しながら直接開催としている。実際に顔を合わせる事で多方面からの意見が出ており、運営に反映させると共に12月にのみ書面審議とした際には、返信用封筒にて意見の収集を図っている。	地域の各代表者が毎回会議に参加しており、ホームに新たな情報ももたらされている。感染症が少しずつ収束に向かう中で、対面開催を通して今後もホームの情報をわかりやすく紹介し、新年度には外部評価についても報告をされることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも市の担当職員出席され、何かある時は電話し相談等おこなっている。必要に応じて指導・助言いただいている	運営推進会議には行政担当者が参加し、運営状況を口頭や書面、写真にて報告している。また認定調査時には職員が同席して入居者の状態を伝えており、介護度が下がられた方もおられるようである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を心がけ年2回、勉強会のテーマとして挙げている。不適切な言葉が聞かれたりする際は職員同士での声掛けを行い、ゆったりとした気持ちでケアを行うよう心掛けている	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、3か月ごとの研修会内容は運営推進会議でも報告している。当ホームが公道に面していることから離設や事故、不審者の侵入など全てのリスクを考慮して玄関を施錠しており、同じく運営推進会議の中で報告している。	入居者、職員も女性ばかりのホームであり、食後もテーブル席に残り何気ない会話にひと時を過ごされることが日課となっている。今後は身体拘束や虐待についてチェックリストなどを活用し、自己評価の機会を持つ事も検討願いたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開き他事業所との意見交換・助言をいただいている。全体での勉強会でもテーマに挙げ身体だけではなく、不適切な言葉がないかお互い注意しあえる環境を作っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者1名成年後見制度を活用している方がいらっしゃる。勉強会でもテーマに挙げ職員が学べる場を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際は管理者と計画作成担当者2名にて対応し、文書を提示し十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも利用者家族にも参加していただき意見や要望を伺っている。また、定期的に電話にて報告している	入居者の意見や要望は普段の会話から聞き取っており、「トイレが少ないので増やしてほしい」「生野菜を食べたい」「ソースが欲しい」など施設設備や食への希望が出されている。家族の意見は運営推進会議や電話、面会時に遠慮なく話してもらおうよう投げかけている。	職員は出された意見を共有して、支援の中に反映し内容によっては代表者に声をあげている。今後は家族へ聞きたい内容を検討してアンケートを取ることも良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議での話し合いをし、問題点やよりよいケアの為意見を出し合っている。又、報告を管理者会議(月2回)で行っている	職員会議でケア向上や処遇改善に向けた意見を出し合い、必要な内容は月2回の管理者会議にあげている。カンファレンスを兼ねており、入居者の担当職員が個々の現状を報告し、全職員で共有している。管理者は職員の希望を聞きながらシフト表を作成し、有休取得を促すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の管理者会議等を通して個々の職員の状況を把握し職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修など受ける環境がある。また、月に1回に同建物2階のグループホーム純心苑と合同勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設との電話でのやり取りはあるが、交流な今のところない。今後、情報交換も継続し行っていきたい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に沿って家族に電話したり、その都度連絡を取り安心していただくと共に買い物や希望に応じ苑周の散歩、運動等を心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みや事前カンファレンスの際、要望を聞きケアプランやサービスに反映している。面会時にも顔合せた時もコミュニケーションを取っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前には必ず面談を行いアセスメントをしている。本人、家族、居宅ケアマネから十分に情報収集をして必要な支援を見極めようと努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロアで利用者と一緒に談話したり過ごしている。また寄り添い声掛けも忘れず安心して生活できる環境を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者希望で面会を依頼したり、年賀状や暑中お見舞い(利用者作成)を送ったりと、本人とご家族との関係性を保てるように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅におられた際の近所の方も面会に来られたり、手紙や葉書きを送ったりと見守りながら支援している	入居者に馴染みの保存食作りには先人の知恵が生かされ、梅干しやラッキョウ漬け、紫蘇ジュースなどの下ごしらえから一連の作業をこなされている。長引くコロナ禍で現在も窓越し面会ではあるが、家族が入居者の顔を見て安心されるようである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係を作れるようテーブルやソファの席を考えている。目を配り何かあった時には職員が声掛けし対応している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に相談していただくよう努めている。外で御家族と会った時には話している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のカンファレンスや入居後の生活をしてみての本人や家族の希望を伺いながら意向を把握している。職員は担当制になっており、責任を持って担当入居者と関りをもっている	女性ばかりのホームは終日賑やかなようであり、自ら思いを語られる方もおられる。外出や食への希望にはできる限り応じ、入居者の「行きたい」「したい」「食べたい」との思いに応えている。担当者会議に参加する家族からは入居者のこれまでの生活ぶりや家族の思いを収集し、ホーム生活やプランにつないでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のカンファレンスの際これまでの生活歴や趣味・嗜好品など本人・ご家族から聞き取りを行っており、入所後も継続できそうであれば継続できるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態の把握に努め、記録や申送りを徹底し、職員間で情報共有している。また、月に一回の職員会議では担当の利用者の現状や願い等を担当職員が発言している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを実施し、状態に変化があれば本人やご家族の希望(面会時や電話連絡にて)を伺っている。計画内容に変更があれば計画書を見直し再交付している	職員を入居者の担当制とし、カンファレンスでの入居者の現状や職員の気づきをプランに反映させている。ケアマネジャーは意思疎通が困難な入居者へは家族からの聞き取りや前事業所からの情報から総合的に判断し、食事形態を検討したり、夜間帯の不眠には薬を使わず、なるべく自宅での生活スタイルを変えることなく対応するとした内容を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月一人ひとりの実践・結果・気づきなどカンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。何か問題があればこの場で話し合って見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染予防の為窓越し面会を実施している。また遠方などの理由で御家族と面会ができない利用者に対しては電話にて話していただき、御家族との繋がりが途切れないように配慮している。また昨年より空床を利用したショートステイの受け入れを開始するなど、急な利用相談にも柔軟に対応できるよう心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントにて利用者を取り巻く社会資源を把握し、ケアプランへ反響しており職員にも情報共有し、利用者が入所後も楽しみや生きがいを持って生活できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4カ所の医療機関より訪問診療して頂いている。症状の変化があった場合は付き添い受診をしている。また、入所前のかかりつけ医への引継ぎも同様に行っている	本人・家族の希望を尊重し、現在4カ所の医療機関による月2回の訪問診療を支援している。専門医については家族や状況に応じて職員が受診対応し、双方で結果を共有している。眼科、歯科は必要時に訪問診療が行われている。今後も入居者の体調の変化を見逃さず、主治医との連携により日常を支えていきたいとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日々の状態は朝・夕の申し送りを行っており、看護職を含めたその日の勤務者で共有している。また、異常時の早期発見に努め看護師にオンコールし必要に応じて主治医の指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居中の情報を文書にて情報提供している。入院先の連携室に状態確認を定期的に行い、円滑に再入所できるように努めており、退院前カンファレンスにも積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、終末期になった場合は、本人御家族と面談しご希望を伺い、当苑で療養したいと希望される場合は、当苑で可能なケア(医療行為は不可)を説明。その内容を踏まえて同意書を作成し、署名を頂いて同意書の内容については全職員と共有し、看護職員を主とし、主治医と連携しながら終末ケアをおこなっている	重度化された場合、本人・家族の意向を聞き取り継続した医療行為は出来ない事などホームの取組を伝えている。ホームに出来る最終を望まれた場合は、同意書を交わし主治医と連携を図りながら支援を行っている。2月に一人の最終を支援した際は、家族へ小まめに連絡を入れ、他の入居者も顔を見に方室されるなど、ひと時を過ごされている。支援後は本人を偲びながら振り返りの時間が持たれている。	入居者は慣れ親しんだ天草の地で地域の支えを受けながら穏やかな時間を過ごされている。高齢の入居者を支援するホームであり、今後はホームの方針を定め、早い段階から気持ちは変わる事もくみ取りながら本人・家族の意向を確認しておくことも重要と考える。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、消防署と消防設備の点検や訓練を行っており、不適切な箇所に関しては指導や助言をいただき改善に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会や消防訓練を通して避難方法を身につけている。現在でも地域の方との協力体制は2ヶ月に1回の運営推進会議のなかで話しているが、コロナ禍ということもあったので実行できていない	研修会や消防訓練を通して全職員が避難方法を身に付けている。ホーム内の安全チェックを行い、居室コンセントの埃なども意識を持って確認している。地域との連携が図られているホームであり、今後も運営推進会議などを活用し、災害に関する情報を得ていきたいとしている。	強固な造りの建物であり、今後は2階のホームへの垂直避難の訓練に期待したい。また、地域との協力体制を課題としており、運営推進会議を活用した訓練の実現が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を損なわないような声掛けや、トイレを使用されている際などはアコーディオンカーテンを閉め外でまったりとプライバシーや羞恥心に配慮している	入居者一人ひとりに応じた声掛けや対応を共有し、その方らしい時間を過ごしてもらえるように努めている。方言が安心されるが馴れ合いや強い口調にならないよう、管理者は気になる事があれば周知を図る機会をもっている。身だしなみやおしゃれも本人や家族の希望を聞きながら応じている。散髪は訪問カットにより対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の日課である体操なども本人の思いを聞き不参加等自己決定できるよう心掛けている。また、ゆったりと会話しながら思いや考えを聞くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせ散歩、カラオケ、花壇の手入れや草取り等、その日の体調に合わせて何かしたいことないか聞き希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みや色彩等を考慮すると共に、お化粧品や身だしなみ自己にてできることは自分でされるよう支援、声掛け見守りを行っている。又、希望時には散髪(床屋)をお願いして来苑してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房からの食事なので一人ひとりの好みの物を提供するの難しいが、行事食やおやつにはリクエストの物を一緒に作ったり、季節に合った食材(らっきょう漬け、干し柿、しそジュース等)を作ったりしている	食事は隣接する施設厨房で作られている。個々の好みを十分取り入れる事は難しいが、地域からの差し入れも多く、一品を加えたりアレンジしながら提供している。入居者の中には「生野菜が食べたい!」「ソースが欲しい!」など要望を出される方もおられ、迅速に対応している。入居者は普段からテーブル拭きや下膳などに関わる他、代表者宅で収穫した青じそを使ってドレッシングや紫蘇ジュースの他、ラッキョウや梅干し漬け、梅シロップ、干し柿やキンカン煮など入居者の出番が多く用意されている。	お好み焼きや焼きそばパーティ、たこ焼きやホットケーキ作りなど食を楽しむイベントが企画されている。地域からの差し入れや職員の持ち寄りも多く、今後も入居者の得意とする出番が継続されることを期待したい。検食簿という改まった形でなくとも、入居者の代弁者として味や量、盛り付け、発せられた一言などを記録に残し、今後に活かす取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は食事時以外に定期的に補うと共に個人の状態により支援・食事は個人にあった量や性状、栄養バランス等考慮し提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うと共に歯科医による定期往診での口腔ケアなど異常時には早期発見に努める		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介護記録表を使用し、排泄の時間を記録し一人ひとりの排泄パターン習慣を活かしトイレ誘導や声掛けを行い汚染やおムツを減らす様努力している	個々の排泄パターンを共有し、自立の方の継続や必要な声掛け、誘導が行われている。パットを併用しながらリハビリパンツを使用される方が殆どであるが、布パンツのみで過ごす方も現在、2名おられる。トイレは2か所備わっており、居室の近くや慣れた場所を使用されている。夜間のみポータブルトイレを使用される方もトイレ同様、清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を心がけ食べ物の工夫・運動等を勧めると共に腹部マッサージ等行っている。また、それぞれの主治医より緩下剤等の指示をいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は入浴を嫌がったりする方はおらず、時間や入浴する順番等なるべく希望に沿った支援を行うよう努めている。個々のお湯の温度を把握し浴槽に浸かっておられる際は肩にお湯をかけたり等ゆったりと話しをしながらの時間となっていたりするようにしている	入浴は午前中を中心に週2～3回支援している。湯温も好みを聞いているが、温湯を好まれる方が多いようである。100歳近くの方も体調が良い時は2名介助で湯船に浸かってもらい、気持ちよく入れるよう配慮している。脱衣所(洗濯機を含め)、浴室は掃除や換気が行き届き、清潔に管理されており、気持ちの良い入浴支援に繋がっている。季節湯の菖蒲・柚子は職員が持ち寄り全員が楽しめる日数取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を把握して情報交換や申し送りに繋げ、居室の環境整備や家具・ベッドの配置を考え支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員管理とし、看護師・主治医、また同グループの薬局と連携し安全に服薬できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や能力を活かした役割、楽しみ方を工夫している。苑周の散歩、花壇の手入れ、掃除の手伝い、食器洗い等個々に合った楽しみや生活を提供すると共にスタッフも楽しみながら一緒に行うよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり、思うように外出する機会は減っているが、少人数でのドライブや海を眺めたりと気分転換が図れるような個別支援も行っている。法事やお寺参り等は御家族様の協力、理解のもと支援できていた	天気の良い日は可能な限り散歩や日光浴の機会を設けている。地元の方々によって管理されている紫陽花ロードへの散歩や馴染みのある海へのドライブ、地域のお寺へお参りに行った際は住職の講和の機会も持たれている。また、家族の協力による外出も制限せず、感染症への対策を施し実施しており法事への帰省も実現している。桜の時期には車窓ドライブをはじめとした花見を計画したいとしており、入居者にとって有意義な外出となると思われる。	今後も状況を見ながら個々に応じた外出支援の継続に期待したい。また感染症の終息を見据え、職員のアイデアや家族の外出への意向を収集しておくことで更に楽しみに繋がると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的に事務所管理だが、移動販売でパン屋やコンビニの車が来た時には好きなものを自分のお金で買われている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞い等、季節の挨拶で葉書きを送っている。電話や手紙も御家族様よりかかってきた場合は本人の声を届けるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう、壁飾り、動線に気を付け置物など居心地よく過ごせるようにしている。またテーブルの上には季節の花を飾ったり匂いも感じていただいたり工夫している	ホームには月に応じた壁面の掲示や地域の方から特産の花が届く機会も多く、季節感のある環境が保たれている。訪問当日は3月という事もあり、雛飾りが置かれ、昼食時には飾りのオルゴールを流し楽しまれたようである。リビングには食堂のテーブル席の他、3人掛けのソファが3台配置され、食事前に口腔体操を全員で取り組まれるようである。台所はオープンな造りになっており、音や匂いが入居者の食への楽しみにつながっている。	ホームの玄関は建物の裏側にあり、わかりづらいことから、引き続き来訪者への啓発に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子等を数カ所に置くよう配置したり、個室(居室)で休まれたりテレビを見られたりと自由に過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に自宅で使われていた家具やテレビ寝具等、使い慣れたものや、写真・仏具などを持ち込んでいただいている	リビング食堂を中心に左右に配置された居室はどれも明るく、現在は面会を控えている家族に代わって職員が中心に衣替えや寝具の管理を行っている。居室への持ち込みについては、自宅で使用していた馴染みのある品(テレビや家具、寝具など)の例をあげながら説明をおこなっている。心の拠り所となる家族の写真をはじめ、遺影が置かれた部屋、半数の方がテレビを持ち込まれ、体操や時代劇などを楽しんでいる。また、趣味の短歌の作品やカレンダーなどが掲示された部屋も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行できる方は職員の見守りで工夫している。また、洗濯物たたみや入浴の準備、料理の下処理や盛り付けなど、入居者ができることは一緒にしていただき職員が付き添い安全面に配慮している		